

みぎわほ一むの由来

聖書の言葉「主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴いたもう」(詩編 23 編 2 節)から取りました。

「緑の牧場」には、「若草や青草」という意味があり柔らかで生き生きとしている所という意味があります。

そこに「伏させ」とある。これには、「横たわる」という意味があり、安全な状態の所で食し、安心の中で身を横たえることが出来るという意味があります。

みぎわは、水辺の意味なので、「いこいのみぎわ」とは憩いの場であり休息を満喫する所です。

そこには疲れとり渴きを潤おす「水」が、豊富に備えられています。

こんな安心ある憩いの場にしたいという願いでみぎわ一むと名付けました。

もみの木の由来

もみの木は、神聖な木として民間信仰の対象とされてきました。

冬でも枯れることの無いもみの木は、生命力の象徴とされています。

また、もみの木に宿る小人が幸せを運んでくれるという信仰もあります。

この生命力にあふれるもみの木のパワーをいただきたいと思います。

デンマークの戦後の復興にかかわったガルダス親子は、大もみ、小もみの併植と間伐の発見により、戦後の荒れ果てたデンマークの土地を豊かにしました。

このデンマークの復興のシンボルとなっている緑の野、世界の楽園になるようにもみの木と名付けました。